



2月の行事予定

- 1 (土) 土曜課外①②、土曜登校学習会②
土曜講座①
- 3 (月) 学年集会③ (6校時)
LHR ③ (7校時)
- 5 (水) 登校日③ 巢立ち教室③
国立大学出願締め切り③
- 7 (金) 進研マ・プロシード②
- 8 (土) 進研マ・プロシード② 駿台①
- 10 (月) 単位追認試験③
- 11 (火) 建国記念の日
- 12 (水) 登校日③ 生徒協議会
- 13 (木) SSH 研究発表会
- 14 (金) 試験時間割発表 成績会議③
職員会議
- 19 (水) 登校日③ 月曜授業
PTA 学年委員会①②③
- 20 (木) 卒業式会場設営
- 21 (金) 第5回定期試験 [~27(木)]
- 27 (木) 登校日③ 大掃除
- 28 (金) 卒業式予行 表彰式
同窓会入会式 職員会議

<大学入試センター試験を終えて>

1月18日(土)・19日(日)の2日間にわたって**大学入試センター試験**が実施されました。前日は雪の予報が出ており、もしかしたら積雪で受験に影響が出るかもしれないとの報道もあり大変心配されました。試験当日は雨となり、大きな混乱もなくセンター試験の初日を迎えられました。しかし、ここ数年を振り返っても、センター試験当日の天気が雨だった記憶はありませんので、雪ではなかったものの、いずれにせよ天気には恵まれなかったのかもしれない。今年は、本校生徒は山梨大学(武田キャンパス)、山梨県立大学(池田キャンパス)、山梨学院大学、山梨英和大学の4会場に分かれて試験に臨みました。昨年とは異なり、今年は**理系の受験者が山梨大学に、文系の受験者が県立大学の池田キャンパスに**、そしてその他の受験型の生徒たちが、選択する科目によって学院大と英和大に振り分けられる形となりました。私は両日とも山梨大学(武田キャンパス)会場で生徒の激励に当たっていましたが、1日目は終日雨となり、気温が上がらず、寒い1日となりました。そのため試験の間の休み時間にも、あまり生徒たちは会場の外に出てくることはありませんでした。2日目は天候が回復したまでは良かったのですが、早朝は前日の雨のせいで路面が凍結している箇所が多々あり、生徒たちが無事に会場に到着できるかやや不安でした。実際、大学に向かう間にスリップ事故を目撃した先生や、自転車で転倒した子供に遭遇したと報告する先生がおり、大変心配しましたが、すべての会場から出席の確認が取れたとの報告を受け、一安心しました。2日間を通じて、当日欠席する生徒もおらず、また大きなトラブルもなく生徒たちが受験を終えられたことが何よりだと思います。



▲ 前日激励会



▲ 県立大(池田キャンパス)



▲ 山梨大(武田キャンパス)

<国公立大学の出願締め切りに注意！>

1月23日(木)に甲府記念日ホテルにて、ベネッセ・駿台と河合塾によるセンター試験分析報告会がそれぞれ行われ、3年の学年主任、担任、進路担当が出席しました。この報告結果を受けて1月24日(金)~28日(火)までに、担任と3学年主任、進路指導主事が、各クラスの面談の内容とデータをもとにして、一人一人の出願先を確認・検討する検討会を持ちました。そこで挙がった事項のうち、特に必要のあることについては、担任から各生徒に伝えられ、国公立大学の出願校を最終的に決定することになります。国公立大学は<前期> <中期> <後期>の3期がありますが、**出願は1月27日(月)から2月5日(水)までにすべて行わなければなりません**。短期間の中で合格可能性を考慮しながら、受験校を決定し、その出願の準備をしなくてはならないわけですが、3年生の皆さんは、要項をよく読み、書類の不備やWEB入力の手違いがないようにしっかり確認して出願の手続きを行ってください!

<センター試験分析報告会から>

センター試験 900点満点 予想平均点

■ 5-8文系	548点	(対前年 -22点)
■ 5-7理系	559点	(対前年 -17点)



* データネット最終集計値を基に、データネット実行委員会で推定した900点満点での平均点

(データネット2020 ベネッセコーポレーション・駿台予備学校の資料より)

今年の大学入試センター試験は、上記の資料のように、**全体の平均点が文系・理系ともに下がる見込み**となりました。これは2013年以来7年ぶりの大幅ダウンということで、今年の受験生の多くが「センター試験で思ったより得点できなかった」と感じているのではないかと推察されます。このような大幅ダウンの要因としては、数学ⅠAと英語の筆記で平均点が下がったことが挙げられます。(数学ⅠAは前年比マイナス7.7点、英語(筆記)は前年比マイナス6.3点) 数学ⅠAでは問題量、計算量としては昨年並みではあるものの、目新しい問題が多く出題されました。例えば「場合の数と確率」では4つの異なる事象の確率を考える問題や「整数の性質」では循環小数と7進法に関する融合問題などが出題され、問題としては難化したのではないかと考えられます。実際、分析報告会の甲府会場で説明された駿台予備学校の担当者のお話によると、立川校に通う学生が受験した会場では、**数学ⅠAの試験終了後、普段とは異なるざわめき**が起きたほどだということです。また英語の筆記に関しては、問題としては、第4問Aの図をもとにした計算問題が出題されたことを除けば、例年通りの形式で大きな変更はなかったのですが、正答の根拠を明確にしようとする手間取ってしまうような設問が多かったような印象を受けました。むしろ、明らかな誤答を消していく消去法的なアプローチをとらないと、時間内に対応できないかもしれません。実際、本校の受験生に話を聞いたところ、時間が足りなくて読み切れなかったとの声も聞かれました。

志望動向としては、上記のようにセンター試験の平均点が下がることが予想され、また**600点台後半から700点台後半までの比較的上位層にあたる得点率帯が昨年よりも減少**しているため、安全志向が強まる可能性もあります。しかし、現3年生は「最後のセンター試験世代」と言われ、次年度以降実施予定の「大学入学共通テスト」は受験したくない、つまり、「浪人はせず現役で合格したい」と考えている生徒が全国的に多いと考えられており、**もともと安全志向が強い**と言われています。このセンター試験の結果を受け、さらに弱気になって安全志向が加速すると、昨年に引き続き、難関国公立大学は受験を敬遠され、ブロック大や地方国公立大などに志願者が集まってしまうかもしれません。

志望校はもちろん、最終的には生徒自身が決めるのですが、担任の先生や教科担当の先生、保護者ともよく相談の上、分析データも参考にしながら、納得の行く受験をしてほしいと思います。

受験できる機会というのは1年に1度しかありません。当たり前ですが、今年の受験がダメなら、次は1年後になってしまいます。だからこそ、今年の受験機会をぜひ大切にしてください。途中であきらめてしまい、出願済みの国公立大学の後期を受けないなんて勿体ないと思いませんか？買わない宝くじは当たりません。同様に受験しない大学に合格することはあり得ません。**合格の秘訣はなんといっても「最後まで諦めないで受験し続ける」ことです！**